



The Y's MEN's CLUB of

もりおか



<VOL95 2015.11>

もりおかクラブ事務所：〒020-0804 盛岡市本町通3丁目1-1 Tel 019-623-1575 盛岡YMCA内
盛岡YMCA HP <http://www.ymcajapan.org/morioka/> 検索エンジンワード「盛岡YMCA」

「主題」

国際会長 Wichian Boonmapajorn
アジア地域会長 Edward K.W.Ong
東日本区理事 渡辺 隆
北東部長 中川 典幸
もりおかクラブ会長 大関 靖二

「信念のあるミッション」
「愛をもって奉仕しよう」
「原点に立って、未来へステップ」
「今と原点を融合して未来へ」
「明るく、楽しく、いきいきと、生かそう経験、感謝の心で」

今月の聖句 マタイによる福音書6章19～21節

 「富は天に積みなさい。あなたの富のあるところに、あなたの心もあるのだ。」

会長 大関 靖二
副会長 井上 修三
書記 濱塚 有史
会計 大関 靖二
担当主事 小川 嘉文
メネット 井上 優子

平成27年12月クリスマス例会のご案内
日時 平成27年12月12日(第2土曜日)午後6時30分
場所 きのえね 会費3,500円、
500円～10000円のプレゼントをご用意ください。
第二例会 平成27年12月18日(第3金曜日)
場所 十割そば。

大関会長巻頭挨拶



今シーズンの初雪が11月23日に降りました。なんとその日が盛岡YMCAの国際協力街頭募金の日でした。雪の後、冷たい雨が降る中、YMCAのスタッフ、リーダー、YMCAに集う子供たち、約40名が参加してくれました。もりおかクラブからは、井上優子さん、長岡メン、そして私です。

大関会長 長岡メンの特性カレーライス(甘口と、辛口の2種類)と、揚げたてのから揚げが振る舞われました。これがまた、絶品！うまかった。冷えた体をお腹の中から温めてくれた事でしょう。センター長から「寒い中、頑張って声をかけ集まったお募金は世界中の困っている人たちの支援になります。ほんとうにありがとう。」との言葉があり、活動に参加した子供たちは「やってよかったね。」と満足した様子でした。毎年のことながら本当にいい経験になったことでしょう。

11月の例会には福島で活躍している酪農家であり、歌手でもある岡田虎治(おかだたけはる)さんが参加してくれました。花巻

で開催した東日本区大会にも歌手として参加してもらい大会を多いに盛り上げてもらいました。酪農家の現状、TPPの影響等のお話がはずみ楽しい例会となりました。

12月はクリスマス例会です。中原牧師の入会式、多くのゲストと方々とのお話、又、リーダー達の多彩なゲーム等楽しみいっぱい例会になることでしょう。

寒さも厳しさを増しています。皆様体調には充分気をつけましょう。

11月第一例会のご報告

平成27年10月10日、きのえね本店にて、第一例会を行いました。大関、長岡、三上、山口、井上、井上優子、濱塚、浅沼(敬称を省略) ゲスト、岡田 虎治さん(福島の酪農家、YMCAのOB、おかだたけはる)9名の参加でした。

「おお、とらじ君、ひさしぶり元気だった？」なんと福島から盛岡まで来ていただいて、例会に参加してくれました。思えば、花巻の大会の晩さん会前に3曲歌ってもらう予定でしたが、時間が押してしまい、2曲で打ち切ってしまい申し訳なく思っておりました。それ以来の再開でした。あの時はごめんね、最初に謝りからのスタートになりました。



とらじくんはその後、両親と本格的な酪農をはじめ、今では牛の生産、出荷に全力で取り組んでいるそうです。牛の出産で子牛を何度も取り上げたことや、人間になつてかわいくなった頃に出荷する別れの悲しみ、TPPで安い海外の牛肉

岡田虎治さん(たけはる) との価格競争。酪農家の前途は多難であることなど、いっぱいお話をいただきました。TPP発効による価格競争なんかに負けないでください。高品質をうたい、逆に海外へ高級牛肉として拡販するような気概で頑張ってください。例会も早々に、カラオケに繰り出しました。とらじくんのオリジナル楽曲をギター1本で弾き語り。素敵なお話を披露してくれました。大関会長はこの日、車で参加したため、お酒は無し。

しらふでカラオケです。いつもの勢いが無い。これはだめですね、いじれない。この夜は、濱塚メンが絶好調。懐かしいフォークソングをいっぱい歌ってくれました。長岡も大満足でした。



すくないながらも、楽しい例会。浅沼君は今月まで？

2015-2016年度 次期部長・事業主査研修会

次期北東部長 長岡正彦



10月31日(土) 東京YMCA東陽町センターで開催。次期東日本区のキャビネットが集まり、準備期間を含めての2年のキックオフとなりました。現状の問題点をさらけ出し、一歩ずつクリアして行こうと意識を高めてまいりました。ワイズの高齢化という事に関し

て、若い会員の獲得という行動目標とすることが上げられました。基本的にはその通りなのですが、会員増強という面では、「若さにこだわることはない。仕事の現役をリタイヤした60代をターゲットにしてはどうか。」という意見が出て、それも一理あると感じました。世の奥様方はリタイヤした旦那を「濡れ落ち葉」と称して「私に張り付くな」などと言っているような。そんなリタイヤ組を狙うのも有効な手段です。私自身は、ワイズメンの閉鎖性に問題があると感じております。「あなたにはワイズメンは無理」という

意識が、会員勧誘の足かせになっていると感じております。誇り高いワイズの意識が足かせになってはいけません。100人勧誘して1人の入会で十分という意識で勧誘していきましょう。YMCAで活動している子供の親御さんや、リーダーを卒業して地元に残り社会人になった若者などYMCAに理解ある方々から勧誘を行うのが、会員増強への近道です。それにしても、誘い続ける事が大切です、ひと任せにせず、いまあなたが立ち上がってください。これは、次期部長の主題につながるのかな、と感じてきました。



次期東日本区キャビネット集合、よろしく願いたします。

盛岡YMCA、サッカースクール

「2015チャンピオンズカップ開催」

11月3日、岩手県立大学サッカー場で開催。小学校低学年4チーム、高学年3チームで予選リーグ、決勝トーナメントとまる1日かけての盛岡YMCAサッカースクールの総決算の大会になりました。今年は宮古のサッカースクールが初参戦。盛岡まで



宮古チーム、がんばったぞ～

遠征して参加してくれました。宮古のスクールは練習機会が少なく、楽しくサッカーをやろう。という雰囲気ので、もちろん盛岡のチームに比べて総合力がかないませんが、やる気とファイティングスピリットは負けてはいませんでした。得点を取れなくても宮古のゴールは僕が守る。孤軍奮闘のGKは最優秀選手賞を受賞しました。また唯一の得点シーンでは、会場が大盛り上がり、子供たちの達成感も最高潮に達しました。今大会のベストシーンでした。担当リーダーも興奮状態、「もう1点とるぞ～」常に前を向

いて走るリーダーでした。

低学年の決勝戦は、延長戦でも決着がつかずPK戦へ、それもサドンデスにもつれ込む大接戦、日が落ちて、薄暗いなかの決着。もう終了の予定時間が過ぎて、宮古へ帰るバスの時間も過ぎていました。表彰状の印刷が間に合いません。やっとのことで印刷が完了したときは、閉会式が終わっていました。解散した子供たちに、遅れた賞状を渡して、ワイズの任務を終了しました。



青い空をバックに参加チーム全員集合、さ～ばんばるぞ～

毎度の事ですが、子供たちとリーダーの繋がりは、綱引きのロープより太いと感じました。本気のリーダーたちに感謝します。ありがとう盛岡YMCA。

「フジテン盛岡DAON」

もりおかクラブの状況報告

11月の出席率	9/12	75 %	ゲスト1名	ビジター1名				
メーキャップ	1	名		11月切手	40 g	累計	120 g	
11月のにこにこ		円	累計	0 円	11月プルタブ	130 g	累計	4,280 g
11月 石鹸	0	円	累計	7,179 円	りんご	0 円	累計	円
11月震災募金	0	円	累計	0 円	ファンド合計	6,942 円		

会費の納入をお願いいたします。岩手銀行 松園支店(店番号 082)普通口座 2145674

もりおかワイズメンズクラブ 会長兼会計 大関 靖二

11月のハッピーバースデー 全国の11生まれの皆様、お誕生日おめでとうございます。

もりおかクラブ、りんごファンド

ご注文はFAXメールをお願いいたします。

今年も、もりおかりんごを販売いたします。「りんご工房きただ」さん自慢の、完熟サンフジ(蜜がたっぷりはいったりんご)になります。「りんごってこんなにおいしかったの」、と納得の味をご賞味ください、この季節お歳暮にも最適です、みなさまの注文をお待ちしております。特選の品質確保のため12月20日で注文を締め切ります、お早目のご購入をお待ちします。

FAX番号 019-684-6361 フジクリーンイワテ
 メール fjc.tak.jouk88@ec1.technowave.ne.jp
 郵便番号、住所、氏名、商品名、数量、送付先、を連絡ください
 贈答の場合は、送付先の情報もお知らせ下さい。
 料金は口座振込でお支払いください。
 (株)岩手銀行滝沢支店 銀行コード0123
 普通口座2031300
 もりおかワイズメンズクラブ 井上修三

りんご工房きただの「こだわりりんご」でございます。

サンフジ、秀、2L、10Kg、28玉、10000円(送料、税込み)

サンフジ、秀、2L、5Kg、14玉、6000円(送料、税込み)

出荷時には無農薬になるような減農薬栽培で作ったりんごです
 生産量は青森、速さでは長野、食べておいしい岩手のりんご、
 晩生のフジは日本一です



盛岡YMCA、国際協力募金活動

11月23日、今年も国際協力募金活動を行いました。当初スタッフ、リーダー、子供たちを合わせて20人くらいの参加と聞いておりました、しかし当日40名もの人数が集まり、びっくりポンでした。この日盛岡は初雪を観測、雨にかわりましたがとても寒い。そんな中、チクサクコールで気合を入れて元気に街頭へ出発していきました。



他の団体の募金活動を見る機会がありました、赤い羽根です。活動している学生の中には、早く担当の時間が終わればいいなという態度で活動していました。しかしYMCAの子供たちはなんとすばらしい大きな声で募金を呼びかけ、笑顔でお礼をして、いくら寒くても、心までは冷えないよ。とばかりに精一杯の募金活動です。

もりおかクラブからは、大関会長、井上優子さん、そして長岡。忘れてならない、ぼりちゃんが助っ人。お昼のカレーとから揚げの担当です。「ちょっとまって、予定人数の倍だよ、カレーはなんとか間に合うかもしれないけど、から揚げはぜったい足りないよ。食事制限なんて子供たちに失礼だよ。」鶏肉を買って増量、総数5Kg。「家族の食事を作るのとは訳が違うよ、気合いれて行こう。」大関さんも、優子さんも、ぼりちゃんも。一気に調理スタートです。とはいっても、大関さんはカレーが焦げないようにかき回し専門、でも頑張ってくれました。から揚げは、少ない油でころがしながら揚げる、水分が飛んで、いい感じに仕上がります。

さあ、子供たちが戻ってきた。昼食の本番どんどん提供の開始です。ここからが本番。冷えた体を温めてね。ん、やっぱりカレーも足りないようです。しかたない、水とカレールーを足して増量だ。でもこれはないしょ、そんなことはつゆ知らず、後半の子供たちもおいしいとって食べてくれました。



活動が終わり、内丸教会内で集計と結果発表、金額の問題でもないし、競争でもないよ。とはいっても。金額は多いほうがいいよね。10万円を越える募金が集まり、一同大盛り上がりでした。

日本国内では10万円でも、海外ではこれの数倍の価値があります。どれだけの人たちを助けることができるでしょう。精一杯頑張ったご褒美は、やってよかったという充実感でした。

「漂流ポスト」、心をいやすあなたへの手紙

陸前高田市広田半島の先にある DIY ガーデンカフェ・森の小舎(こや)には、昨年開設した「漂流ポスト 3・11」へも手紙が寄せられています。ここでは多彩な「青空教室」を開いており、店主の赤川勇治さんは「震災で傷ついた心を癒す場所として、気軽に利用してもらえれば」と話しています。

震災後は特に「仮設住宅で閉じこもってしまう人がいないよう、楽しいひとときをここで過ごしてほしい」という思いから、気候の良い時期には屋外でさまざまな催しを開催。寄せ植え教室や気仙茶の紅茶作り講座、コーヒー講座など、各種教室を開いて楽しい時を過ごしてほしいと営業を始めました。

昨年3月に、「震災で亡くなった人に対する思いや、誰かに語りかけたい気持ちを手紙に託してほしい」と「漂流ポスト 3・11」を設置。震災犠牲者の家族や友人、大切な誰かを失った人、人にはきかせない思いを抱えた人などから続々と封書などが寄せられています。届いた手紙は50通ほどがファイルにとじられ、希望者は閲覧ができます。

同じ人から2通、3通と送られてくる場合も。赤川さんは「きっと手紙を書いている時は、届けたい相手とつながることができるの



りかけたい気持ちを手紙に託してほしい」と「漂流ポスト 3・11」を設置。震災犠牲者の家族や友人、大切な誰かを失った人、人にはきかせない思いを抱えた人などから続々と封書などが寄せられています。届いた手紙は50通

でしょう」といい、しみじみファイルを眺める。当初は気仙管内の人に書いてもらえればと思って始めたことでしたが、多くのメディアで取り上げられたことにより全国から封書、はがきが寄せられるようになりました。札幌市の女性から、亡き弟がしたためにいた童話、『つくしんぼ君～春の国より』という本が届きました。手紙には「少しでも多くの方々の悲しみが和らぎますように」と書かれていました。赤川さんは「震災によってだけでなく、さまざまな苦しみを抱えた人がいる。漂流ポストの役割はこれからが本番だと思っている」といっています。引き続き投かんを呼びかけています。

家族との突然の別れはなにも震災だけではありません。交通事故、病気、人間一人では生きていけないのですから、家族を失う悲しみを乗り越える手段として、ありがたい存在になっています。「先に亡くなった人は、その人を知っている人たちの中で生き続ける。」と言います。でもいつまでも戻らないのです。ならば、心の整理をするために手紙を書いて、さようならを言いましょ。そして生き残った私たちは、今日を精一杯生きて、後から愛する人のところへ行きましょう。

差出人はどんな立場の人でも構いません。宛先は〒029・2208 広田町赤坂角地159の2 森の小舎漂流ポスト 3・11。問い合わせは同店(電話 0192・56・3054)へ。原則として手紙・はがきの返却はしません。手紙を公開されたくない人はその旨明記をしてください。

え、白鳥に餌をやっちゃいけないの？

盛岡の冬の風物詩といえば、高松の池や中津川に飛来してくる白鳥たちです。一緒にカモたちも群れをなしてやってきます。この冬鳥たちに餌をあげてはいけないと、言われています。鳥インフルエンザの蔓延を防止するためだそうです。もし群れを成している鳥たちにインフルエンザが感染すると、その地区の鳥は全滅してしまうという理由のようです。鳥インフルエンザは渡り鳥が感染源であると疑われています。確証はないのに、疑われて、いかにもそれが本当のように恐れられています。養鶏業者の怯える気持ちは理解できます。もし発生するとその養鶏場の鳥はすべて殺処分、半径30Km以内の養鶏場は出荷禁止。会社経営や携わる人々に多大な損害がでます。わかってはいるのです。



我が子が小さいころ、中津川の白鳥にパンのミミをあげて喜んでいました。野生の鳥との一時的な触れ合い、いいものでした。この楽しみにより、白鳥は自力で餌をとることを忘れ、人間のそばにやってくるようになります。それはその通りです。そもそもそれが問題なのです。という事をはじめに説明してくれれば納得するのに、いきなり鳥インフルエンザを持ち出して、餌やり禁止は釈然としません。なにか養鶏業者の政治的な圧力が裏にあるような気がしてなりません。でも、無視して楽しんで、病気が蔓延でもしたら、責任を取れないので、餌やりはやめましょ。

野生の鳥は自力で餌を求めて、田んぼや、川岸の草の実などを食べて生きていけるよう。かわいそうなどと思わないで、お互いの生活圏で生きていきましょう。でも残念です～。

編集後記

11月28日、午前5時です。11月号の編集が終わろうとしています。今日は、北東部会評議会の日、9時に井上さんと大関さんがやって来て、宇都宮まで、ドライブです。雪がちょっと心配

家族との突然の別れ、経験はしたくないです。でもその時は突然やってきます。普通の暮らしがどれだけ幸せな時なのか、今一度平常の幸せを噛みしめてください。ワイズメンならばわかるはずです。ではまた来月お会いしましょう。 長岡。